



発問の視点番号  
引③ 鍛②

ずをつかってかんがえよう  
【新編 あたらしい さんすう1下 P.62~63 (東京書籍)】

5 / 5時



せんせいのほかに何人いるか

1 2人 1 3人

ケーキをかうために  
人がならんでいます。  
ゆみさんのまえには4人  
ならんでいます。うしろ  
には5人ならんでいます。  
人はぜんぶでなん人な  
らんでいますか。

〈めあて〉 ずをかいてかんがえ、しきとこたえをもとめよう

前に4人なので 後ろに5人なので  
ゆみさんを入れていない  
ゆみさんを入れている

●●●● ●●●●  
4 + 5 = 9 9人

〈まとめ〉 もんだいぶんをよくよ  
み、ずにかくとだいなことを  
わすれずにかんがえることが  
できる。

前に4人 次にゆみさん 後ろに5人

●●●● ● ●●●●  
4 + 1 + 5 = 10 10人

前に4人 後ろに5人ゆみさん

●●●● ●●●●● ●  
4 + 5 + 1 = 10 10人

### 1 指導内容（新学習指導要領解説編から）

小学校算数科編より

数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

### 2 本時のねらい

数量の関係に着目し、問題の場面を図に表すことを通して、計算の意味を考える。

### 3 「深い学び」の礎となる「見方・考え方」を動かせるための発問の意図

**引** 【「見方・考え方」を引き出す発問】  
いくつかの集合の合計数を求めるという学習の見通しを持たせ、学習への関心を高めるようにする。

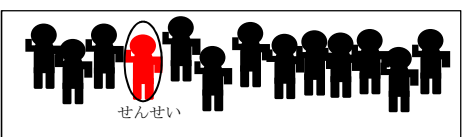
**鍛** 【「見方・考え方」を鍛える発問】  
これまでの課題解決の方法を振り返り、図をかいて考えることよさに気付くようにする。

### 4 「主体的な学び」・「対話的な学び」の重点

【対話的な学び】

図に表すことで場面が捉えやすくなることを実感できるようにするために、隣同士で問題場面を表した図を用いながら、考えた順番通りに説明し合うようにする。

### 5 学習過程

段階	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 口評価の観点【評価方法】
導入	<p>1 学習への関心を高める</p> <p>T <b>引</b> 問題の絵で、先生の他に何人いますか。[引③]</p> <p>C 1 1, 2, 3, 4, 5……12人。 C 2 13人。 C 3 先生は入れないよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点 口評価の観点【評価方法】</li> <li>・人が横に並んでいる絵を提示する。</li> </ul> 
10分	<p>2 問題場面を捉える</p> <p>ケーキをかうために人がならんでいます。 ゆみさんのまえには4人ならんでいます。うしろには5人ならんでいます。 人はぜんぶでなん人ならんでいますか。</p> <p>〈めあて〉 ずをかいてかんがえ、しきとこたえをもとめよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生を境として左側と右側の人数を数えさせることで、本時の課題を考える準備をさせる。</li> <li>・問題文を読んで確認させ、分からないことはないか投げ掛ける。</li> <li>・何を求めるのかを全員で確認する。</li> <li>・図をかいて考えることを伝える。</li> </ul>

展開 30分	<p>3 自分で考える</p> <p>C 4 前に4人なので ●●●● 後ろに5人なので ●●●●● <math>4+5=9</math></p> <p>C 5 前に4人 次ゆみさん ● 後ろに5人 ●●●●● <math>4+1+5=10</math></p> <p>C 6 前に4人 後ろに5人 ゆみさん ● <math>4+5+1=10</math></p> <p>●●●● ●●●●● ●</p> <p>4 考えを説明し合う</p> <p>T 隣の人に、もう一度はじめてから図をかきながら考えを説明しましょう。</p> <p>C 7 前に4人なので ●●●● をかきます。 後ろに5人なので ●●●●● をかきます。 だから式は <math>4+5=9</math> になり、答えは9人です。</p> <p>C 8 前に4人なので ●●●● をかきます。 ゆみさんがいます ● をかきます。 後ろに5人なので ●●●●● をかきます。 だから式は <math>4+1+5=10</math> になり、答えは10人です。</p> <p>5 全体で考えを交流する</p> <p>T 考えて違うところはどこでしょう。</p> <p>C 9 ゆみさんを入れているか入っていないかが違います。 C 10 ゆみさんの1が真ん中や最後に入っています。</p> <p>T 人は全部で何人ですか。</p> <p>C 11 ゆみさんを入れるので、全部で10人です。</p> <p>T 答えが10の式を見て、気付いたことや大事なことは何でしょう。</p> <p>C 12 1が真ん中や最後に入っています。 C 13 ゆみさんの分の1を忘れずに足すことが大事です。</p> <p>T <b>鍛</b> どのようにすれば大事なことを忘れずに考えることができますか。【鍛②】</p> <p>C 14 問題の場面をしっかりと図にかくことです。 C 15 問題文をよく読むことです。 C 16 問題文に出てきた人を、全部図にかくことです。</p> <p>〈まとめ〉 もんだいぶんをよくよみ、すにかくと、だいじなことをわすれずにかんがえることができる。</p> <p>6 適用問題に取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 机間指導で、問題文の言葉が表す場面と図が一致しているかを見取り、一致していない児童には助言を行い、図をかくことができるようにする。</li> <li>• 左記以外の考えとして、先にゆみさんがいて、その後に4人、5人となる式 (<math>1+4+5=10</math>) が想定される。</li> <li>• ペアを作らせる。</li> <li>• 新しいページに、図をかきながら考えを説明させる。</li> </ul> <p><b>数学的な考え方</b> 計算の意味を図を使って考えている。【ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 黒板に図をかきながら考えを発表させる。その際、ICT機器を用いることができるときは活用する。</li> <li>• 考えの違いを捉えさせ、ゆみさんも含めることが必要だったことを全体で共有する。</li> <li>• ゆみさんをもたさずに考えるには、図をかくことが有効であることを児童から発言させる。</li> <li>• 発問の後、ペアで話し合わせ、考えを明確にさせる。</li> <li>• 子供の発言をできるだけ取り入れて、まとめる。</li> </ul>
	終末 5分	<p>7 本時の学習を振り返る</p> <p>T 今日の勉強は、どのようなことに使えそうですか。</p> <p>C 17 体育で整列した時、ぼくの前に何人いて、後ろに何人いるか調べれば、今日の計算のように図にかいて、何人並んでいるかが分かります。</p>